



随时更新しています  
のでご覧ください。

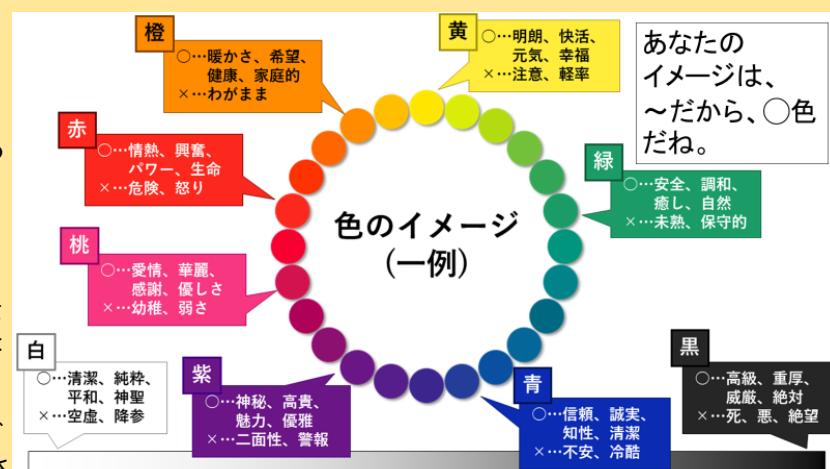
## 前期人権教育強化月間で学んだこと

6/4～7/4までの期間、前期人権教育強化月間として各学年で学習をしてきました。前期人権教育強化月間の導入として、校長より「Colors」について講話があり、「一人一人の個性を認め合い、多様性を包み込む南宮中」について考える大切な時間となりました。

校長講話『Colors』(6月6日:金)

6月 校長講話

最初に「あなたは何色?」という活動をします。プリント表(下図)を見てください。あくまで一例ですが、そこに色のイメージがあります。例えば黄色を見てください。○(良いイメージ)として「明朗、快活、元気、幸福」とあります。今日は×は無視してもらって結構です。プリントを参考に、ペアの人の良いイメージから、「あなたのイメージは明るいから黄色だね」というように伝えてあげてください。ちょっと難しいけど、そんなに深く考えずに伝え合ってくださいね。2~3分取ります。あなたは何色でしょう?



色は英語でColor。「Colors」というとても素敵な曲に出会ったので紹介します。まず歌詞を見ます。私の方で一度読むので、皆さんには「ここがいいな」とか「そうだよな」と感じ

実はこの歌詞を考え、メロディーをつけたのは南宮中の生徒なのです。2年生のAさんとBさんが昨年の「第61回中山晋平記念音楽賞」にエントリーし、みごと優秀賞に選ばされました。3月15日(土)にソソラホール行われた発表会ではこの歌をプロの歌手が歌ってくれました。その時の映像をお借りしたのでこれから流します。皆さんにはプリントの歌詞を目で追ったり、映像を見たりしながらお聞きください。それでは曲は「Colors」。作詞・作曲はAさん、Bさんです。(右写真)

#### 個人情報保護のため写真を削除

## 表彰式の様子

私がこの歌詞で好きなところは、最後の『人の出会いで ぼくは変わってゆくだってせかいはたくさんの色であふれているから ぼくの色と君の色がすてきな色をつくる ぼくの色をつくる』です。不思議な縁で一緒になったクラスや学年の仲間、先輩や後輩、お家の方、先生方などいろいろな人とのつながりの中で、自分を見つめ、考え、わたしの色がつくられていくのだと思います。きっと一色だけではないでしょうね。

今日は「Colors」という話をしました。前期人権教育強調月間の学びが、一人一人のColorsを認め合い、多様性を包み込む南宮中に向けて人権感覚が高められることを願っています。

## 【前期人権教育強化月間中の学びの様子】

### <1学年>

1学年では「安心できる1学年になろう!」をテーマに自分や友達を理解して、誰もが居心地の良い学級や学年をつくれるように人権の授業を行いました。

#### 【第2時「いろいろな人の感じ方や気持ちを理解しよう」を学習した生徒の感想】

- ・学校など、いろいろな人が生活する場では、ひとりひとりの事情を認識して、みんなで意識することが大切だと思った。「光が気になってしまふ」という人がいることを初めて知ったので、自分が「当たり前、基準」とは考えずに、いろいろな人の個性としてそれぞれの感じ方を受け止めたい。
- ・みんながみんな違うことをあらためて知ったから、自分が当たり前だと思わないようにしたいです。クラスの人が困っていたら、どうして困っているのか聞いてみて、その人がクラスで過ごしやすいようにしたいと思いました。

### <2学年>

2学年はクラス替えをして、新しい学級でより深い仲間関係をつくるために、「お互いを尊重できる関係を築こう!」をテーマに、自分や友達をより深く理解して、みんなが安心して過ごせる学級や学年をつくれるように人権の授業を行いました。

#### 【第3時「『ふつう』って何?性の多様性について考え方】を学習した生徒の感想】

- ・傷つけてやろうと思ってなくとも、無意識に誰かを傷つけてしまうことがあると思う。自分がだけの考えが正しいと思わず、色々な人と関わって色々な考え方を知っておくことが大切だと思う。
- ・それぞれ人にはいろんな家族の形があって、それぞれ悩みや苦しみがあることがわかった。そんな人たちの個性を尊重しながら、受け入れながら生きていくことが世界に求められていることだと思った。
- ・ただ、少しだけまわりと考え方違うだけなのに、差別されて、自殺や死に追い込まれなければいけないのか。別に、異性同士で付き合わなければ、結婚できないなんて決まりはないはずだから、法律を変えるべきだと思う。

### <3学年>

3学年では「同和教育~差別と闘う人々~」をテーマに、全国水平社や中野市の日野覚醒会について学び、差別解消に向け立ち上がった地域の方々の心にふれる学習を行いました。

#### 【第3時「中野市の部落差別をなくすための活動について詳しく学ぼう」を学習した生徒の感想】

- ・口先だけでは、「参加したい」とか「差別は良くないと言える」とか何でも言えるけど、実際行動に移せるかと言われたら迷ってしまう自分がいるなと思った。行動に移すことはとても難しいことだと感じたからこそ、「日野覚醒会」や「全国水平社」などの活動を始めた人たちは行動力があって本当にすごいな、と思った。
- ・九右兵衛さんたちは、ずっと苦しくて何もできなかったのに、中心となって一軒一軒を何回も訪問してまで説得していて、それほど怒りが強かったのだなと思った。自分が被差別部落の人だったら、なくしたいと思っていても、最初は行動できないと思うし、「言う」という勇気もないから九右兵衛さんたちはすごいと思った。差別をなくしたいと思う人はたくさんいるから、協力をしてなくしていく活動が広まればいいなと思った。

### <全校(人権委員会の活動)>

人権委員会では、すろくトーキングや南宮キラリさんの発行、人権アンケートを行いました。6月4日に行われたすろくトーキングでは、4人程度の班ですろくをして友達と楽しくお話をしました。「好きな動物は?」「犬派、それとも猫派?どっち?」などの質問に答えながら、自分の駒を進めていきました。和やかな雰囲気で人権教育学習を進めることができました。

個人情報保護のため写真を削除